石井造園株式会社 CSR報告書

2011.6.18

YOKOHAMA

幸福を共有できる企業を目指して

石井造園株式会社　代表取締役　石井直樹

今年もCSR報告会の開催、並びに報告書の発刊が出来ますのはお支え頂く皆様のおかげだと心より感謝しております。

3月11日東日本を襲った震災で亡くなられた方、被災し不自由な生活をしている方々に対し、心からご冥福と、お見舞いを申し上げます。

発生当日の首都圏に於ける混乱ぶりからは、改めて電力に依存した社会構造のもろさを感じました。私は、厚木から打ち合わせの帰りで、5時間半渋滞しながら帰ってきたのですが、栄区に入ると停電しており真っ暗闇でした。ところが、日没からの約4時間、弊社の明かりだけは発電機を稼働させ、消える事が無かったそうです。工事用の黒板に「充電できます・トイレ貸します・水道使えます」と書き、環状4号線の渋滞車両にアナウンスをし、町内にも満たない極めて小範囲ですが、声掛をしていました。私が帰る前の出来事で、何の指示もマニュアルもない中で、地域に対し一灯を灯すことができた社員を誇らしく思います。

震災発生から11日後に気仙沼市と南三陸町にお見舞いに行く機会があり、各市長・町長と総務担当の方から、直後に何が起こり、10日間のご苦労をうかがい、現在必要な物を聞きました。情報を整理集約することの大切さ、そして個の自立と公共意識の向上が大切だと話して下さいました。

また、炊き出しや物資の分配には、民間ボランティアを取り仕切る行政以外の組織が必要だと感じました。道の両側に堆く積まれた瓦礫、打ち上げられた大きな船、三階の屋上に達する津波の跡に、恐怖と虚脱感とが混同する圧倒的な光景でした。

4月9日には「栄」つながりでご縁のある、長野県栄村と宇都宮市内の避難所に、ノートを1万2千冊持ってお見舞いに行きました。お会いした全ての被災地の方々は、これほど痛めつけられても郷土の復興に前向きに取り組み、何とかして震災以前の、それ以上の地域を手に入れようと頑張る覚悟が見えました。

電力、化石燃料に依存した社会構造を作ってきた我々の責任は大きいと思います。電力会社の社会的責任も重大で、想定外では片付けられないと思うのです。企業活動の大小で範囲は違いますが、企業の社会的責任が有ることを意識してこれからも経営してまいります。

今年度も『ついでに、無理なく、達成感のある事をしよう』の合言葉のもと20の活動を展開しました。特に意識して行ったのが、NPOとの協働で、雇用に関しては、K2インターナショナル様とエティック様の協力で、インターンシップの受け入れをし、内2人はアルバイト雇用を継続しています。環境教育では栄区少年補導員連絡会様と協力し、いたち川の自然観察会と樹名板の取り付けをいたしました。また、栄区グリーンサポーター制度にも登録いたしました。その他活動に於いては以降紹介いたしますが、他団体との協働により成果がより高まったと感じております。

より質の高い公共設備を、地元横浜市にお返しするというミッションに於いては、1件の工事を受注し、84点でした。平成22年度までに横浜市発注の工事は、累計で25件の内22件が80点以上の評価を頂いており、21年度の優良工事請負業者の表彰を受けました。

5月にCSR活動のマネジメントレビューを実施し、下記の23年度CSR目標を策定いたしました。これからもより深い活動を展開し、皆様から信頼される企業を目指して参ります。よろしくお願いいたします。

代表取締役　石井直樹

私たちの想い

今年3月11日に東日本大震災がありました。地震直後は燃料が出回らなくなったり、停電になったりと、明日どうなるのかも分からないこともありました。しかし直接被災していない我々が慌てても仕方ありません。

被災地では復興に向けて確実に進み始めましたが、弊社は被災地に高額の義援金を送ることもできません。物を大量に送ることもできません。むしろ我々は節電を心がけたり、被災地のものを選んで買ったりしながら今まで通り、普段通りに活動していくことが地域の、日本の為になると考えています。こういう時だからこそいつも通りに活動をし、地域が活発になるようにしていきたいです。

皆さまと一緒に、栄区を、横浜を、日本を元気にしていきましょう。

CSR推進責任者　雨宮　純平

石井造園株式会社　経営理念

企業活動を通して、顧客及び社会から信頼される企業をめざす

CSR方針

石井造園株式会社は経営理念にある、顧客及び社会に信頼される企業を目指すため、生業の全てにおいて、地域志向CSR方針を打ち立て事業を展開していきます。

1）活き活きとした活力ある職場環境を作ります。
2）仕入れや発注先には地元を優先し、地域経済の発展に寄与いたします。
3）緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します。
4）法に抵触する事はもとより、事後に発覚し格好の悪い事は、絶対にしません。
5）この活動の有効性を監視し、永続的に改善いたします。

CSR方針に基づき地域社会の一員として、地域に活かされている我々である事を確認し、地域貢献企業として事業を展開していきます。

平成23年度CSR目標

① 社員研修旅行に行く
② 倫理的規範を充実する
③ ＮＰＯ及び地域作業所とのコラボレーション
④ 各現場で緑化啓蒙活動を実施し苗木配布を500本する

市民が選ぶ「CSR」大賞ノミネート

日本財団CANPAN主催のCSR大賞にエントリーし、12社のうち1社としてノミネートされました。このCSR大賞は会社の取り組みを世間よし・売り手よし・買い手よしの三方よしの視点からどの程度実行しているかを点数で評価し、市民投票の投票数で大賞を決めるというものです。

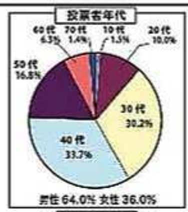
これまではCSR情報の開示性が高い東証1部上場企業と、NPOから推薦があった中小企業のみがエントリーできましたが、今回から自薦・他薦でエントリーできるようになり、選考した後、最終ノミネートされ、市民に選んでもらうという形になりました。

石井造園は2年前の「第2回CSRプラス大賞」で地域推薦枠としてノミネートされ20社中11番目の800票を超える投票を頂きました。

今回応募した「第4回市民が選ぶCSR大賞」では最終選考に残った12社中10番目でしたが、前回を上回る1200票を得ることができました。

市民から大手企業と同じ目線で比べてもらい、頂いた投票数やご意見を噛みしめながら次年度以降も活動していきたいと思います。

順位	企業名	得票数
1	㈱マルハニチロホールディングス	3,991
2	㈱クボタ	3,221
3	マテックス株式会社	2,924
4	株式会社キッズコーポレーション	2,757
5	サッポロホールディングス株式会社	2,313
6	東急ＳＴＳ株式会社	2,047
7	株式会社ピースマインド	1,857
8	ワイズティーネットワーク	1,837
9	パナソニック株式会社	1,211
10	石井造園株式会社	1,207
11	積水ハウス株式会社	543
12	オリンパス株式会社	404
	合計	24,312



［投票者のコメント］

「ついでに、無理なく、達成感のある活動」という言葉にとても感銘を受けた。巷にはびこる曖昧なボランティアという言葉より、ストレートで温かさを感じる。（40代会社員 男性）／緑化基金の仕組みが素晴らしいと思います。相手だけではなく、自分たちも同額を基金へ入れるというのは、なかなかやれそうでやらない。こういう企業の姿勢が地域に根付いて広がっていくと、とても大きな力になっていくのだろうと思います。（40代無職 女性）／これからも横浜で先陣を走ってキラリと光る活動を展開していっていただくことを期待しております！（20代会社員 男性）

20年度より弊社独自に緑化基金を設立しました。基金は緑あふれる地域の学校、施設、団体の活動のために活用します。基金は、現在弊社の工事・作業・手入れ等の全業務において、請求金額のうち末尾3桁の金額(1～999円)までを集計し、さらにその同額を弊社からも寄贈するかたちで集めます。123,456円の工事の場合、工事金額から456円と弊社から同額の456円を合計し、912円を基金とします。諸団体と相談して、年間の合計額を植樹、鉢植えの寄贈のほか、緑化活動の為の費用として大切に利用したいと考えております。20年度は合計64,512円、21年度は66,266円、22年度は80,123円が集まりました。今後も引き続き継続していきます。小さな活動ですが、地域のために出来ることを一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。

ご協力頂いた方々

青柳邸・(宗)青木神社・秋本邸・荒井邸・荒川邸・犬山町内会・イオンディライト(株)・(株)井幸建設・生駒植木(株)石井邸・稲内邸・(株)えぼし・エミナンス井土ヶ谷管理組合・王子邸・(有)大川園芸・大船ルーテル幼稚園・岡部邸・オルタスクエア(株)・尾見邸・大江邸・かさまの杜保育園・笠間連合町内会・(株)カトーコーポレーション・神奈川県横浜労働センター・特定非営利活動法人かながわユースボランティアりんぐファクトリー・青柳邸・木村邸・河野邸・小山台中学校・栄区連絡会・佐々木邸・左近山団地中央地区住宅管理組合・椎野台町内会・鎌形造園建設(株)・芝浦エンジニアリング(株)・島津邸・湘南建設(株)・杉本治療院・鈴木邸・(株)セイフティ・ユー・(株)筑前組・(宗)大光院・高岸建設(株)・高橋邸・竹内邸・(株)タクエー・田中邸・玉田邸・東京建装工業(株)・学校法人東洋英和女学院・豊田地域ケアプラザ・中野地域ケアプラザ・(株)長野工務店・名里邸・並木幼稚園・西本郷小学校・日新建設(株)・能勢邸・野庭幼稚園・ハウスイン湘南・長谷川邸・畠山邸・福井邸・二葉建設(株)・ブリーズベイホテル(株)・星邸・本多邸・松井邸・(株)丸保・三好邸・村上邸・村田邸・横浜市・(有)吉田材木店・若木邸・(株)和幸・渡辺邸・(有)ワタナベペイント(敬称略・五十音順)

陸前高田市の一本松

復興のシンボルとなっている一本松

東日本大震災の津波の猛威に、人の作り上げてきたものは、いとも簡単に破壊されてしまいました。

そのすさまじい状況の中を耐え抜いた一本松が話題になっています。壊滅的な被害があった岩手県陸前高田市の名勝「高田松原」の1本です。

私たちはたくさんの知恵、技術をもって自然災害に備え対策をしてきたつもりでした。しかし、この松はそこに生えて年月を過ごしてきただけです。自分に必要な根を伸ばし、成長し、季節を繰り返してきただけです。人はこの松1本にかなわなかったということです。

自然の恐ろしさと自然の強さを教えてくれるこの松は、今では復興のシンボルになっているとのことです。廃墟になった町にたたずむこの一本松は、私たちにたくさんのメッセージを語りかけているように思いませんか。

寄稿

石井造園㈱CSRに対する意見

横浜市立大学CSRセンター長　影山　摩子弥

石井造園さんは地域で社会貢献活動をたくさんしています。しかし、無理をしておらず、今後も継続していけそうです。つまり本気で続けるためにやっていることがわかります。お金をかけて大規模にやっていても、心がこもっていない、形だけの取組みに比べれば、雲泥の差です。

ただCSRにおいて大事なのは、製品や業務、経営の質です。顧客や地域に迷惑をかけるようでは失格です。石井造園さんは、品質のISO認証をとるほどで、従業員数がわずか10人とは思えないレベルです。

環境のISO認証を取っていませんが、ホームページ（HP）に詳細な情報を掲載できるほどの取組みです。自然に触れる仕事ですから、自然の大切さがわかっているのでしょう。

地域の顧客や取引先、住民に対して、積極的に情報を開示していこうとする姿勢は、高く評価できます。中でも、地域の方を集めて毎年開催している報告会は地域の人々に直に取組みを伝えることができますし、生の声を聴けます。会社にまで招くというのは、CSRの取組みがしっかりしていないとできるものではありません。取組みの質の高さがうかがえます。

地域の企業が地域のためのCSRに取組むことで、地域社会は活力を持ったり、住みやすくなったりします。地域社会は、そのような企業がなくならないよう大事にしなければなりません。例えば、庭木を切る際には、石井造園さんにお願いするという程度でも良いのです。地域が良くなるには、地域社会の姿勢が大事です。

HPに掲載されている環境への取組みデータや地域貢献活動の記録は、取組みの社会的意義を示すデータです。ただ、CSRは経営戦略ですから、取組みの経営上の効果を評価しなければなりません。適切な評価は取組みの充実につながります。この評価は経営戦略の要ですから、開示を控えて差し支えありません。